

- 1 日時 平成 24 年 7 月 2 日 (月)
- 2 学年 第 3 学年 2 組
- 3 題材名 合唱の響き「地球の詩」 三浦真理 作詞・作曲
- 4 題材設定の理由

・ 題材観

本題材は、混声三部（部分四部）合唱曲「地球の詩」（三浦真理作詞・作曲）を教材とした歌唱の題材である。学習指導要領の内容は、A「表現」（1）歌唱の事項ウ「声部の役割と全体の響きとのかかわりを通して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」、〔共通事項〕のうち、旋律、強弱、テクスチャなどを扱う。

「地球の詩」はト短調、4分の4拍子の合唱曲である。ユニゾンから始まり、混声二部合唱・三部合唱と声部が増えていくようにつくられており、無理なく混声合唱の響きに触れることができる。また、冒頭の16小節がユニゾンで、それ以外はそれぞれの声部が主旋律や他の旋律を表現し、その重なり方や強弱の変化などとともに曲想を醸し出している。

本題材の学習を通して、音楽の構造におけるそれぞれの声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌う能力を高めることが期待できる。

・ 生徒観

本学級の生徒は、歌うことを好む生徒が多い。生徒の中には音域が狭く歌うことに自信がもてない生徒も見られるが、何人かのリーダー的存在の生徒が積極的に歌うなど、学級全体としては歌唱の学習を意欲的に取り組んでいる。また、毎時間繰り返し発声練習を行うことで、以前より声域や声量が拡大している。

しかし、参考音源を聴く活動を多く取り入れ、音楽の構造を把握するように指導してきたが、自分の担当する声部と他の声部との役割を理解し、客観的に自分たちの表現をとらえて声の音色や強弱に気を付けて歌うことに課題がある。また、旋律や強弱などの特徴と感じ取った曲の雰囲気とをかかわらせ、明確な意図をもって工夫につなげていくまでには十分に至っていない。

・ 指導観

指導に当たっては、旋律のまとまりや強弱、テクスチャ、などを知覚したことについて楽譜に書き込ませることで、楽曲から感じ取ったこととのかかわりや、生徒自らが楽曲の構成に気付いたりするように指導を工夫する。また、声部別に録音された音源を活用したり、無伴奏合唱を取り入れたりすることで、自分たちの表現を客観的にとらえていくように指導を工夫する。

## 5 題材の評価規準

音楽への関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地球の詩」の声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地球の詩」の旋律、強弱、テクスチャなどを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。</li> <li>・ 「地球の詩」の知覚・感受に基づいて、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「地球の詩」の声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。</li> </ul>

## 6 指導と評価の計画（全4時間）

次	○学習内容・学習活動 【時数】	関 創 技			評価規準	評価方法
		関	創	技		
一	<p>○「地球の詩」の声部の役割と全体の響きに関心をもって歌う。</p> <p>・「地球の詩」を聴き、声部の役割と全体の響きについて感じ取った印象などを話し合う。</p> <p>・「地球の詩」のリズムや音程に気を付けて、声部ごとに歌う。</p> <p>【1時間】</p>	◎			<p>・「地球の詩」の声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	観察法
二	<p>○「地球の詩」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取る。</p> <p>・「地球の詩」を歌い、自分が歌う声部や全体の特徴的な要素を知覚・感受し、それらを楽譜に書く。</p> <p>○「地球の詩」の音楽を形づくっている要素の知覚・感受を深めるとともに、声部の役割と全体の響きについてのかかわりを追求する。</p> <p>・声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、声部ごとに歌いながら、どのように歌えばよいか考える</p> <p>【1時間】</p>		◎		<p>・「地球の詩」の旋律、強弱、テクスチャなどを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受している。</p> <p>・「地球の詩」の知覚・感受に基づいて、声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して音楽表現を工夫し、どのように合わせて歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>観察法</p> <p>作品法 (楽譜)</p>
三	<p>○「地球の詩」の声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした曲にふさわしい音楽表現を追求する。</p> <p>・声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かして合わせて歌う。</p> <p>・学習全体を振り返り、声部の役割と全体の響き、音楽を形づくっている要素に触れながら、学んだことをワークシートにまとめる。</p> <p>【2時間】 (本時1/2時間)</p>	◎		◎	<p>・「地球の詩」の声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。</p> <p>・「地球の詩」の声部の役割と全体の響きとのかかわりに関心を持ち、音楽表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。</p>	<p>観察法</p> <p>ワークシート</p>

## 7 本時の展開

本時の目標	「地球の詩」の声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かし、表現を工夫しながら合わせて歌うことができる。（音楽表現の技能）	
学習活動	指導上の留意事項	評価規準[評価方法]
1 発声練習をする。 2 「Tomorrow」を歌う。 3 「地球の詩」を歌う。	○声が出しやすい雰囲気づくりをする。 ○発声に気を付けて歌わせる。 ○響きと音の高さに集中させる。	
4 本時の目標を確認する。		
<b>曲のしくみを生かし、響きのある合唱をしよう</b>		
5 後半の部分をどのように歌うか想起する。 6 パートごとに練習をする。 7 楽曲全体（1番のみ）を合唱で歌う。 8 全体でどう歌うか確認し、後半を合唱する。	○前時の学習から、テクスチャ・強弱などに着目し、各パートの工夫する点を想起させる。 ○各パートの練習を聴き、意図したことが表現できているか確認する。 ○ア・カペラで歌わせ、声部の役割、全体の響きに集中させる。 ○音程が不安定な部分があればキーボードで基準の音を弾く。 ○mpで息をしっかりとらせたりfで声が保たれるように体の使い方を工夫させる。	○「地球の詩」の声部の役割と全体の響きとのかかわりを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けて歌っている。 <b>【音楽表現の技能】</b> [観察法]
9 再度楽曲全体（1番のみ）を合唱で歌う。	○姿勢や発声に気を付けさせて、表現意図を生かして合唱させる。	
10 本時の振り返りをする。	○後半の表現について振り返らせる。 ○必要に応じて工夫点を楽譜に書きこませる。	

### ○「十分に満足できる」状況（A）の例

声部の役割や全体の響きを生かした音楽表現について、音色や強弱、言葉の発音などの歌い方が明確に歌唱表現に表れている。

### ○「努力を要する」状況（C）と判断される指導の手立て

指導者が実際に歌って聴かせたり、他の生徒の歌を聴かせたりすることで、音色や強弱などの違いに気付くようにするなど、一人一人にできるだけ具体的なアドバイスを行う。